

平標山山スキー報告

【山域】 谷川連峰・平標山（1983.8m）

【日程と天気】 2017年3月29日（水）晴れ

【メンバー】 CL 菊池・吉川・会員外3名

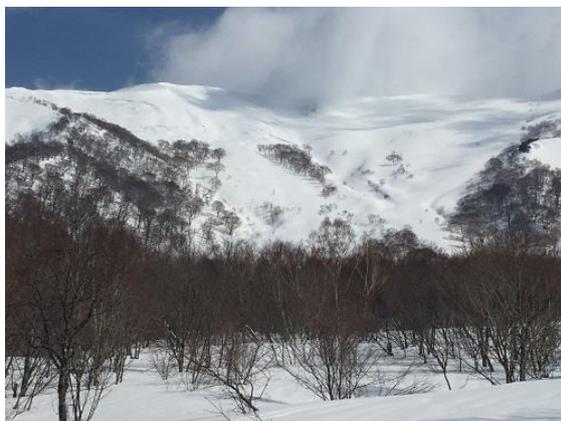
【行程】

千葉 3：45—湯沢 I C—7：30 火打峠駐車場（997m）8：10—林道—ヤカイ沢の沿って進む—1460m地点—ブナ林北西尾根—稜線（尾根）1630m—12：30 山頂 12：56—往路を滑走—14：30 駐車場



7年ぶり4回目の平標山スキーに5名（3名は初挑戦）で行ってきた。68才～72才の山スキー愛好家が千葉と新潟から集結、絶好の山スキー日和に恵まれた。今期は残雪豊富、除雪終了地点はこんな感じでたっぷりの残雪量です。ヤカイ沢に入っていくと、平標山頂の稜線から展開される迫力の急斜面が目飛び込んできた。雪崩の破断線が数

か所みられるが数日間の降雪で地面は真白く覆われている。雪崩の好発時期であり、各地で雪崩・遭難事故が頻繁に報道されており、慎重な行動を心掛けながら進んだ。平日でもあり、絶好のツアー日和ではあるが入山者は少なく、先行者は単独の2名、トレースを辿りヤカイ沢を上部に詰めて行く。



振り返ると、苗場スキー場方面が見渡せる。前回の2010年の3/20は気温が上がり、ザラメ状態で正面のダイレクト尾根を、頂上近くに登り上げ、西ゼンに標高差150mほど滑走できたが今回は、降雪後でもあり、雪崩に危険性を考えできるだけ斜度の緩いルートを選び右の尾根から1630m地点の稜線に乗り上げた。



ブナ林の尾根に入っていくと北西斜面のため、上質のパウダーが温存されている。30度近い急斜面もあり、結合状態を確かめながら慎重にハイクアップした。前日からの降雪量は10~20cmであるが数日間の降雪により、ストックを刺してみると深い所で60cmほどの深さまで新雪がありそう。ラッセルはそれほど深くなかった。ブナ林からダケカンバに移行するとやがて、右に雪庇が現れ平標山の家からの



登山道ルートと合流するあたりは下地が固くなってきており、シュカブラも見られるが、スキーアイゼンなどは装着しなくてもあまり苦労しなかった。崩落している部分も見られ、できるだけ雪庇から離れるようにハイクアップした。

山頂に近づくと風が強ク、シュカブラが見られるが、薄くて柔らかい新雪の緩やかな広い斜面である。



山頂に到着するとガスが掛かり視界不良であるが、風は弱い。行動食摂取と滑走準備。エビのしっぽで覆われた看板の雪を取り除き、記念撮影した。山頂に居合わせたのは、ダイレクト尾根を先行した若者、我々の後を追って登頂した単独者と合わせて計7名。



雪崩の好発時期でもあり、往路を忠実に辿って滑走した。

シュカブラの多い固い部分は慎重に高度を下げたが、柔らかい新雪の覆われた斜面は滑りやすい。紺碧の青空の下爽快な滑走を楽しんだ。やや急で下地が固い斜面に来るとやや引っかかる感じでスピードが出る。



板をしっかり踏みつけての滑走が肝要である。

パウダーの温存されたブナ林の北西斜面に入ると、やや重になったが、この時期にしては素晴らしいパウダーツリーランである。斜度が急になる直前で休憩をとりピットチェックした。積雪が 280 cm、15 cm～20 cm 間隔で 3 層ほど、不明瞭な弱層がある。最上部の結合は良くないが、その下部の結合はそれほど悪くない。



小生がトップで慎重にターンしながら 50m 間隔くらいで停止しながらリードした。皆さん、思い思いにパウダーランを楽しんだ。



下部に行くと雪質は重くなり、オープン斜面に出ると途端にターンするのに難儀した。あとは悪雪に怪我をしないように、慎重に下るだけである。雪崩回避の作戦を慎重に練り上げ、千変万化の春山スキーを堪能した一日でした。

